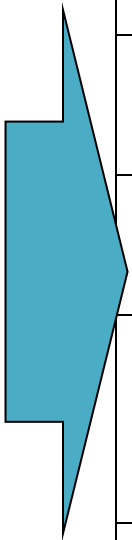


令和7年度 授業改善推進プラン【4年】

小平市立小平第十四小学校

振返りの視点			児童の実態	指導上の課題
学校経営目標（短期）	学力向上	主体的・対話的で深い学びの実現	○国語辞典や学習者用端末を活用して、自分の興味・関心のあることを調べている。 △対話や自分の考えを表現する技能を向上させる必要がある。 △文章資料等の読み取りが必要である。	・学習者用端末を使用する上での基本的な技能・知識の差の考慮。 ・話型を中心に、対話の方法について定期的な指導。問題解決の技能としての活用。 ・資料の読み取りのポイントを共有したり、大事な部分に下線を引いたり等の指導。
		基礎学力の定着	○学習規律を守って取り組んでいる。 △3年生までの既習事項について、十分に定着させる必要がある。（漢字・ローマ字、引き算・かけ算・図形） △自分の考えをもって書いたり話したりすることに時間を要する。	・チャイム着席、「はい、立つ、です。」の継続指導。 ・計画的な朝学習の推進（漢字・ローマ字入力・九九など） ・説明文、紹介文など、目的に合わせた書き方や話型を示すなど、書くことや話すことの計画的な時間の設定。
		体力の向上 運動への関心・意欲の向上	○体を動かすことに意欲的に取り組んでいる。 △振り返りを行う中で課題解決につながる話し合いをしていく必要がある。	・学習カードを活用した振り返りの視点の焦点化。 ・自分や友達の成長が感じ取れる課題解決学習の推進。
	健全育成	道徳教育の推進 異学年交流活動の充実 異文化理解教育の推進	○異学年の集団生活や遊びの中で、自主的にルールを築いたり、自治的な活動を進めたりしている。 ○人権意識をもって他者と関わることができるようになっている。 △授業の中で、体験を通して学ぶ時間を重視していく必要がある。	・体験のねらいの明確化。活動だけで終わるのではなく、振り返る過程を重視した計画。 ・人権について考えさせる機会や時間の設定。



教科等	授業改善の視点	具体的な取組	評価
国語	1 「書く」活動の継続 2 朝学習（補習）の活用 3 対話的な学習を取り入れる	・学習のまとめを、文章にして振り返る活動を取り入れる。 ・ <u>朝学習の時間を活用し、読書や語彙を増やす活動、ローマ字入力などの練習に取り組ませる。</u> ・対話的な学習を行う際に、話型を用いることで考えを表現しやすくする。	
社会	1 資料の読み取り（解釈・説明）の習熟 2 用語を適切に活用した意見の交流	・ <u>資料の読み取りから始まる学習形態を継続し、必要な情報を集める力を身に付けさせる。また、資料を読み取る時間を確保し、読み取ったことを説明するなどの活動を取り入れる。</u> ・ <u>学習者用端末を使用し、互いの意見を交流しやすくすることで、学びを深められるようにする。</u> ・「地図アプリ」を使い、自分が住んでいる場所との位置関係の把握や都道府県の位置を覚えるなどの地図に関する学習を取り入れる。	
算数	1 問題解決的な学習の充実 2 四則計算の習熟	・問題を解決する方法や自分の考えを友達と交流するなど、対話を通して、多様な考えに触れ、その中で思考力や表現力を高められるようにする。 ・ <u>教科書の二次元コードを読み込み、補充問題に取り組ませる。</u>	
理科	1 問題解決的な学習の充実 2 考察をする力の向上	・実験結果から自分の考えをまとめ、対話を通して多様な考えに触れ、科学的な思考力・表現力を高められるようにする。 ・ <u>実験結果や観察の記録を残しておく際に、学習者用端末のカメラ機能を活用し、考察する力の向上を図る。</u>	
音楽	1 表現活動の工夫 2 鑑賞活動の充実	・ <u>リズムや旋律、各声部の特徴を写真や絵、音図形で視覚的に示すことで曲想と音楽の構造との関わりに気付いて表現できるようにする。</u> ・ <u>曲の速さに合わせて歩いたり、手で拍を取りながら聴いたり、曲を聴いて場面の様子を想像する活動を通して音楽の構造に目を向ける。</u>	
図工	1 様々な表現方法や素材の体験 2 鑑賞活動の充実	・ <u>様々な表現方法や身近な素材に触れ合うことで、児童の意欲や発想を高める。</u> ・ <u>作品を鑑賞し合うことで、他者の作品のよさに気づき、自分の作品の創作に生かす。</u>	
体育	1 めあて・振り返りを意識した活動 2 体育的活動による体力向上	・単元ごとに学習カードを使用し、分かったことなどを記録したり振り返りを行ったりすることで、学びを深めていく。 ・持久走、なわとび週間など、計画的かつ継続して取り組み、体力の向上を図る。 ・ <u>学習者用端末のカメラ機能を使い、写真や動画を撮影して確認し合う児童を設けることで技能の向上を図る。</u>	
道徳	1 話し合い活動や振り返り活動の充実 2 生命尊重・いじめ防止に関する心情育成	・ <u>考えたことを話し合う機会を確保したり、「道徳ノート」を継続して活用したりして、振り返りの習慣化を図る。</u> ・考えたことを行動に移せるように、あいさつ運動などを推進する。 ・学期に1回以上、生命尊重やいじめ防止に関する授業を行う。	
総合的な学習の時間	1 探究的な学習の推進 2 福祉への理解を深める学習	・他の教科等との関連を図りながら、身に付けるべき資質・能力を明確にして、探究的な学習活動に取り組ませる。 ・ <u>学習の成果などを「スライド」を使って視覚的に分かりやすく発表する機会を設定する。</u>	
外国語活動	1 学習展開のスタンダード化 2 小・中連携の強化	・ <u>学習のゴールを明確にした授業の展開を行う。</u> ・高学年の学習にスムーズに移行できるように、教員間の情報共有を行う。	
学級活動	1 話し合い活動の充実 2 きょうだい学級の関わり	・司会グループの輪番制、折り合いを付ける集団決定など、児童の自主的、実践的な話し合いのスタイルを身に付けさせる。 ・全校遠足や十四小まつり等で上学年の自覚をもち、交流する。 ・ <u>アンケートを実施し、様々な学級活動に生かす。</u>	